

湯山昭作曲の冠モーツァルトピアノ曲

野口秀夫

1. はじめに

湯山昭は 1932 年生まれ、東京芸術大学音楽学部で池内友次郎に師事。在学中の 1953 年「ヴァイオリン小奏鳴曲」で NHK・毎日新聞社共催の音楽コンクール第 1 位次席、1954 年に同コンクールに「弦楽四重奏曲」で第 2 位。1955 年卒業後は器楽、合唱、童謡と幅広い分野の作品を発表している。日本童謡協会会長、日本音楽著作権協会評議員会議長を歴任。

作品は聴きやすく、表題付きが多い。誰もが知っている曲は童謡の「おはなしゆびさん」であろうと思われる。<[インタビュー](#)>

2. 冠モーツァルトピアノ曲

幾つかのピアノ曲集は、子どもが弾けることを考慮した平易な曲から成っているが、曲の表題に“モーツァルト”の名前が見られるものがある。湯山が想像した様々な視点からのモーツァルトの描写であろうと思われる。

2.1 こどものためのピアノ曲集《こどものせかい》から〈ともだちモーツァルト〉<[音源](#)>

《こどものせかい》は、1976～1977 年にかけて作曲された、34 曲から成るピアノ作品集である（初出版社：カワイ楽譜出版社）。1967 年に湯山が初めて発表した子どものためのピアノ曲集《こどもの国》同様、手の小さい子どものために、オクターヴ奏法を使わずに書かれている。難易度はバイエルからソナチネ程度。手の交差や拍子の変化など、各種テクニックも盛り込まれている。

湯山は、一人で過ごすことが多かった子ども時代の記憶を辿りながら、「遥かな少年時代への賛歌」としてこの曲集をまとめた。「日本の子どもたちに日本人の感性を」という想いを込めて、子どもたちが体験する多様な場面や気持ちを描いている。題名にも〈おでかけするひ〉、〈どうして?〉、〈おねだり〉など、子どもの日々の暮らしからイメージできるものが多い。

湯山の子どものための作品には、「さまざまなリズム」や「現代的な和音の響きや日本の音の美しさ」、また「転調がもたらす色彩の変化」といった特徴がある。曲集中、特に第 6、22 番にはリズム、第 20、34 番には和風の響き、そして第 33 番には転調の魅力がよく表れているだろう。曲集後半の作品には、発表会などでも映える曲が多い。（解説：須藤英子）

〈ともだちモーツァルト Mozart is A Friend of Mine〉は 32 曲目。

2.2 ピアノ小品集《小鳥になったモーツァルト》から〈小鳥になったモーツァルト〉<[音源](#)>

著者が以前より主張した、両手の手の幅を最大限、長 7 度までに押さえて、オクターヴ奏法なしに弾けるバイエル終了程度の易しい曲を子供たちへ捧げる魅力あふれる曲集。英文表記は Mozart became a little bird.（カワイ出版から 1998.12 に刊行）

2.3 ピアノ小品集

色彩豊かな音の世界が広がる魅力的な小品集。バイエル後半からブルグミュラー程度のレベルで、バロック・古典派・ロマン派・フランス印象派・新しい日本の響きなど、様々なスタイルの曲を楽しみながら学ぶ事ができる。難易度が易しく、弾き映えのするこれらの曲は、レッスンはもちろん発表会やコンクールにも最適。（全音楽譜出版社から 2009.1 に刊行）

2.3.1 ピアノ小品集から〈つぶらな瞳のモーツァルト Bright-eyed Mozart〉<[音源](#)>

2.3.2 ピアノ小品集から〈ひとりぼっちのモーツァルト Lonely Mozart〉<[音源](#)>

2.3.3 ピアノ小品集から〈きまじめクレメンティ Sincere Clementi〉<[音源](#)>

クレメンティに関してはモーツァルトによる辛辣な評価が知られている。「さて、クレメンティについて。——この人は律儀なチェンバロ奏者です。——でもそれだけのことです。——右手が非常に巧みに動きます。——彼のみせどころは、三度のパッセージです。——その他の点では、趣味も感情もまったくありませんし、たんに機械的に弾くだけです [1782.1.16 レーオポルト宛]」「さて、クレメンティのソナタのことで、お姉さんに少し話したいことがあります。——あの作品にはなんの意味もないことを、演奏する人も、聴く人も、自分で感じるでしょう。——六度とオクターヴのほかには、特に顕著だとか、注目すべきパッセージは何ひとつありません [1783.6.7 レーオポルト宛]」。

2.4 《音の星座》から〈疾走するモーツァルト Dashing Mozart〉<[音源](#)>

子供から大人まで幅広く親しまれるように作曲された。4 部に分かれており、全 28 曲（全音楽譜出版社から 2009.10 に刊行）。連弾 3 曲を含むピアノ曲集である。〈疾走するモーツァルト〉は明らかに「小林秀雄の「モーツァルトのかなしさは疾走する。涙は追いつけない」による。

3. むすび

湯山昭の冠モーツァルト曲を紹介したが、ここから他の曲の鑑賞へと広がっていくことを期待する。

（作成：2021 年 6 月 2 日）